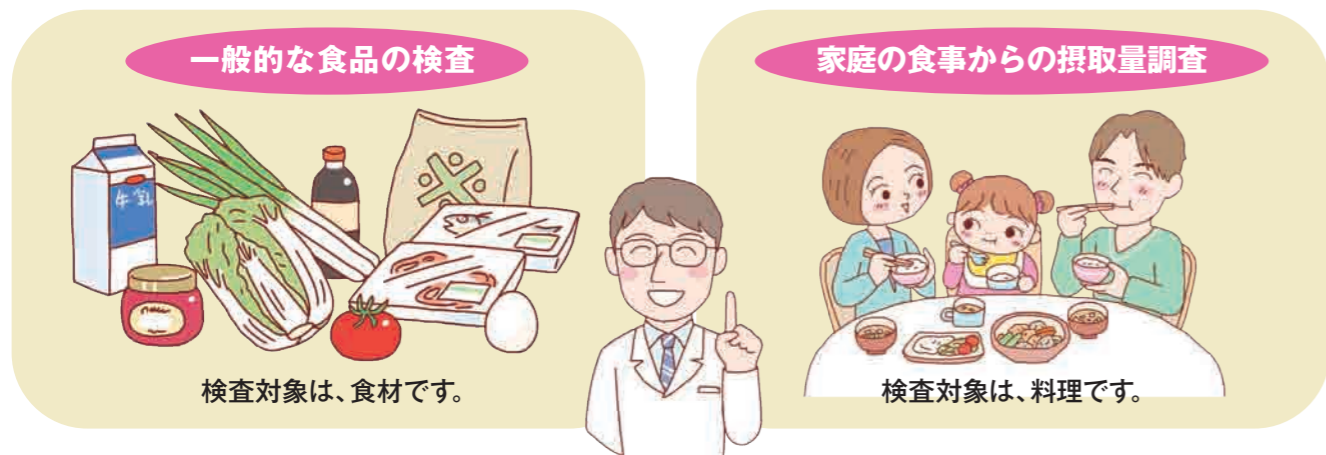


## 家庭の食事からの放射性物質摂取量調査とは？

一般的に「食品の検査」は、食卓にあがる前の商品…つまり、お店に並べる商品、配達される商品を検査します。これは、組合員に安全な商品を安心して利用していただくために大切な取り組みです。では、その商品を組合員が調理して、『いただきます!』する「料理した食べ物」ではどのような状態なのでしょう？ **実際に口にする食事をそのまま丸ごと検査する。**それが、家庭の食事からの摂取量調査です。その検査を3.11東日本大震災以降、不安に思われている組合員が多い放射性物質について取り組みました。



この調査は、日本生協連をはじめ全国の生協検査担当者の被災地への想いがかたちになった取り組みです。

### 日本生協連からのメッセージ-----message

「被災地の方々の不安に検査部門として何ができるのか？」議論する中で「生活に密着した、科学的なデータを示すことが助けになる」という意見が多数ありました。

そして、18都県の生協が協力する「摂取量調査」に取り組んだのです。

調査結果をお伝えするため、コープふくしまをはじめ、各地の組合員と交流する機会が生まれました。お話をするなかで、「ここで生活する自信がいった」「実際に食べているものの実態がよくわかった」「生協らしいよい取り組みなのでこれからも継続してほしい」など励ましの言葉を多くいただき、生協の大切な財産になったと感じています。

### 2012年度調査結果の概要

- 放射性セシウムについて検査し、2011年度と比較して検出率、測定値何れも下がる結果となっています。
- 測定値と摂取量より推計した内部被ばく線量も下がる結果となっています。2012年4月に施行された基準値の根拠である「年間許容線量 1mSv」と比較しても十分に低い値となっています。

年度	2012	2011
調査数(コープネット数)	671(220)	250(80)
検出数(検出率)	12(1.8%)	11(4.4%)
測定値(Bq/Kg)	検出せず~4.2	検出せず~11.7
内部被ばく線量(mSv/年)	0.019~0.053	0.019~0.14

放射性ヨウ素の検出は兩年ともありませんでした。測定値の検出限界はセシウム134・137各1Bq/Kgです。測定値は134・137を合算した値です。

## 調査の進め方

- 1 料理をご家族分+1作っていただきます。  
この+1が調査分となります。
- 2 食べるものと食べないものを選び分けます。  
(骨、ようじ、バラなど)
- 3 フリーザーバッグにパサッ、スープをジャー、ジュースをジャー
- 4 空気を抜いてフリーザーバッグをしめます。  
冷凍保管し、検査センターに送ります!

調査に参加されたモニターの方たちのちょっとおもしろいお話

**とにかくたいへんだった**  
献立調査表に食べたものを全て詳細に記入しなくちゃいけなくて、これが結構な労力でした。いつもの感覚で、タブレットをシャカシャカして食べた後に、「あー記入しなくちゃいけないのに、うっかり食べちゃったじゃない!私のバカバカ」と思いました。そして、同量をフリーザーバッグに…。

▶献立調査票

**メモダイエット?**  
フリーザーバッグに食べた食事と同じものがどんどん入って行って、パンパンになるのを見て「私、こんなにたくさん…」と絶句。これはかなりショックでした。(笑)また、調査票に記入するうちに、「私、こんなに食べてるんだ…」と考え込んでしまい、メモダイエット気分になりました。

**私って、やっぱり生協スキ**  
調査表に並ぶCO-OPマーク。私ってなんだかんだ、コープ商品のお世話になってるんだなあ。と、しみじみ実感しました。

商品の検査も実施しています!

2012年度は、放射性セシウムについて5,247検体の検査を行い、99.2%で検出はありませんでした。また、検出しても全て国が定める規格基準値以下でした。

コープデリ宅配では、定期的にお知らせのチラシを配布しています。店舗では掲示してお知らせしています。